【様式】

令和7年度　学校マネジメントシート

学校名（　かがやき特別支援学校　）

1　目指す姿

<table>
<tr><td colspan="2">（1）目指す学校の姿</td><td>医療及び福祉機関と連携した教育環境のもとで、子どもたちが学びあい、教育活動全体を通して学ぶ楽しさとわかる喜びを感じ、子どもたち自身が自分の願いや目標を達成できるよう指導・支援する学校
〇隣・併設する病院の多職種(医師、看護師、保育士、PT・OT・ST等)と連携した「チームかがやき」として、入院する児童生徒の一人ひとりのニーズに応じた教育を推進する。
〇本・分校3校が連携し、県内の特別支援学校のセンター的機能を牽引するセンターオブセンターとして、本県の病弱教育、肢体不自由教育及び発達障がい支援を推進する。
【緑ヶ丘校】
国立病院機構三重病院(以下、三重病院)・三重大学医学部附属病院(以下、三重大学病院)との連携による病弱虚弱教育の拠点校
【草の実校】
三重県立子ども心身発達医療センター(以下、医療センター)の整形外科・リハビリテーション科、草の実病棟、三重病院との連携による肢体不自由教育の拠点校
【あすなろ校】
医療センターの児童精神科、あすなろ病棟との連携による発達障がい支援の拠点校</td></tr>
<tr><td rowspan="2">（2）</td><td>育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)</td><td>〇思いやりと優しい気持ちをもち、自他のいのちを大切にする子ども
〇確かな学力と社会性を身につけ、生活の中で生かそうとする子ども
〇友だちと助け合い、知恵を合わせて課題を解決しようとする子ども
【緑ヶ丘校】
一人ひとりに応じた健康的な生活や自分らしさを大切にし、確かな学力を身につけ、自信と希望をもって地域に戻ることができる児童生徒を育てる。
【草の実校】
一人ひとりの心身の発達に応じた学力・コミュニケーション能力や豊かな人間性を身につけ、積極的に社会参加することができる児童生徒を育てる。
【あすなろ校】
一人ひとりに応じた学び方や対人関係の築き方を身につけ、確かな学力と自信をもって生活を送ることができる児童生徒を育てる。</td></tr>
<tr><td>ありたい教職員の姿</td><td>〇隣・併設する病院と緊密に連携し、病弱教育、肢体不自由教育及び発達障がい支援の専門的な知識を有するとともに、入院する児童生徒の想いに共感し、寄り添う姿勢で、授業改善に積極的に取り組んでいる。
〇本県の病弱教育、肢体不自由教育及び発達障がい支援の中核となる学校の教員として県内の特別支援教育を推進するという使命感をもち、3校共通の校務分掌組織(指導部・運営部・支援部で構成される3部体制)のもとで同僚や関係機関との協働を通して自らのキャリアアップに努めている。
〇特別支援学校の教職員として、子どもたち一人ひとりの実態に応じた指導・支援を誠実・丁寧に進めることで児童生徒及び保護者・関係者からの信頼に応えるとともに、高い人権意識と共感的な態度で真摯に教育活動に取り組んでいる。
【緑ヶ丘校】
三重病院・三重大学病院との連携
【草の実校】
医療センターの整形外科・リハビリテーション科、草の実病棟、三重病院との連携
【あすなろ校】
医療センターの児童精神科、あすなろ病棟との連携</td></tr>
</table>

2 現状認識

<table>
<tr><td colspan="2">(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待</td><td colspan="2">＜児童生徒＞
○毎日元気に登校し、学習や体験活動を通して楽しい学校生活を送りたいと願っている。
○「わかる授業」に基づく学力の保障や退院後の前籍校への復籍や社会参加につながる技能・知識の習得を望んでいる。
＜保護者＞
○退院後の復籍、進学に向けて、児童生徒の実態に合わせた丁寧な指導が行われることを望んでいる。
○児童生徒の一人ひとりのニーズに応じた教育が行われ、自己実現と社会参加につながる技能・知識を習得し、個々に応じた進路が保障されることを望んでいる。
＜前籍校＞
○支援情報の共有や具体的な助言等の支援によるスムーズな復帰を期待している。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待</td><td>連携する相手からの要望・期待</td><td>連携する相手への要望・期待</td></tr>
<tr><td>＜保護者＞
○復学時等に学習進度で遅れないこと
＜前籍校＞
○治療後の円滑な復籍
＜病院＞
○治療に有効に寄与する学校生活の充実と情報共有
○支援の共通理解、役割分担の明確化
＜関係諸機関＞
○退院後、地域での生活にスムーズ移行するうえで必要となる情報の共有
○卒業後の生活を見越した密接な連携と生徒の情報提供
○生徒の基本的生活習慣の確立と保護者の協力</td><td>＜保護者＞
○見守りや教育活動に対する理解と協力
＜前籍校＞
○支援情報の共有
＜病院＞
○医療情報等の共有と密接な連携
○教育環境・内容の充実に係る理解と協力
＜関係諸機関＞
○退院後、地域生活を支えるうえで必要となる支援の情報提供と役割の分担
○卒業後の進路及び生活に係る情報提供と支援
○就労についての理解と就業体験の機会の増加</td></tr>
<tr><td colspan="2">(3)前年度の学校関係者評価など</td><td colspan="2">・一人の児童生徒に担任だけでなく多くの教職員がかかわりながら指導が行われていることは、児童生徒の成長や発達に大きな影響を与えていることから、今後も継続して取り組んでいけるとよい。
・児童生徒の発達段階や特性等に応じた授業が丁寧に行われていることを保護者に向けて一層情報発信できるとよい。
・児童生徒へ適切な支援を行うには客観的な評価に基づく実態把握が重要であることから、病院と学校がより密に連携できるとよい。
・児童生徒への支援方法や内容について、前籍校とかがやき特別支援学校との間には差があるように思われる。復籍後の定着のためにも支援に係る情報の確実な引継ぎとともに、支援のあり方を検証できるとよい。加えて、前籍校への引継ぎの際には、支援の目的や前籍校の実情に応じた工夫点も助言できるとよい。
・復籍後の生活において医療的な配慮や課題が生じることもあることから、病院とかがやき特別支援学校間で課題等を情報共有するとともに、前籍校での配慮事項や校内体制等について学校間で意見交換するなどして、前籍校へアフターフォローができるとよい。
・関係病院と連携した効果的な地域支援を実施するうえでコーディネーターの果たす役割は大きいことから、コーディネーターを計画的に育成していけるとよい。
・学校の特性上、地域とのかかわりは少ないが、今後は地域の小中学校との交流等を通して地域住民とも交流できるとよい。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">(4)現状と課題</td><td>教育活動</td><td colspan="2">○一人ひとりの児童生徒の病状や学習状況、進路状況が様々であることから、多様な教育的ニーズに応えるために丁寧な実態把握と柔軟な対応を行う必要がある。
○児童生徒の前籍校へのスムーズな復籍に向けて、復籍支援パンフレット等を活用するなど前籍校との連携をさらに丁寧に進め、細やかな支援を行う必要がある。
○隣・併設する病院と連携した「チームかがやき」としての支援体制のもと、教育相談等の地域支援、「かがやき講座」等による研修支援、学校ホームページや理解啓発用冊子を利用して医療と連携した先進的な情報の積極的な発信等に努めるセンターオブセンター機能を発揮する必要がある。</td></tr>
</table>

	学校運営等	○本・分校3校で運営するスケールメリットを活かし、3校が連動した一体感のある校務運営（指導部・運営部・支援部の3部体制）を進めることで、効率的・合理的な運営に努めるとともに時間外労働時間の削減につなげる必要がある。 ○学校における不祥事防止に向け、「信頼される学校であるための行動計画」に基づく取組を継続する。「学校信頼向上委員会」の運営を通して全教職員にコンプライアンスの徹底を浸透させるとともに、児童生徒の特性や心情を理解した指導・支援を実施することで県民からの学校教育に対する信頼回復を図る必要がある。 ○教職員が自ら学び生き生きと業務に取り組むことで自己の力を十分に発揮するとともに、助け合いながら業務を行うことで達成感や充実感を共有できる風通しの良い職場環境づくりを進め、働きがいを実感できることで職員満足度の向上を図る必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	**○多様な教育的ニーズへの対応** **【3校共通】** 児童生徒の病状や学習状況を転入時に丁寧に把握し、病院に入院する児童生徒であるという背景、個々の病状や心情を十分に理解したうえで、児童生徒の想いに寄り添った教育活動を行い、ICT機器の活用も視野に入れるなど今後の復籍を見据えた丁寧な支援を進める。 **【緑ヶ丘校】** 児童生徒の前籍校と緊密に連携し、授業進度を確認しながら学力保障を着実に進めるとともに、病状に応じて柔軟に対応できるオンライン教育について引き続き研究を深め、実践につなげる。 **【草の実校】** 医療センターや三重病院との緊密な連携により肢体不自由のある児童生徒の発達段階を踏まえた系統的な教育について研究し、ICT機器の活用を含め、実践につなげる。 **【あすなろ校】** 医療センターとの連携により、発達障がいの特性に応じた指導を丁寧に進めるとともに、個別の指導計画に基づき、教職員が課題を共通理解したうえで統一感のある指導を進める。 **○前籍校への復籍支援** **【緑ヶ丘校】** 入院期間が多様な中、三重病院や三重大学病院、前籍校等と入院直後から緊密に連携して、児童生徒や保護者の安心感につながる復籍支援を進める。 **【草の実校】** 医療センターや三重病院、前籍校等と緊密に連携して、児童生徒一人ひとりに応じた支援情報の引継ぎを着実に行い、円滑な復籍支援を進める。 **【あすなろ校】** 医療センターや前籍校等と連携し、個々の児童生徒に応じた支援情報の引継ぎを着実に行い、円滑な復籍や進学につながる支援を進めるとともに、退院後の児童生徒の状況把握に努める。 **○センターオブセンター機能の発揮** **【緑ヶ丘校】** 三重病院・三重大学病院との連携のもとで病弱教育に係る情報発信に努めるとともに、三重大学病院に入院する高校生の支援、高等学校への発達障がい支援の充実を図る。 **【草の実校】** 医療センター・三重病院と連携した支援の充実や情報の発信等により、県内の小中学校等の肢体不自由のある児童生徒に向けての支援の充実を図る。 **【あすなろ校】** 医療センターと連携した発達障がい支援の拠点として、県内の特別支援学校との協働により小中学校等への支援の充実を図る。

学校運営等	**○3部体制による組織的・効率的な校務運営【3校共通】** 本・分校3校で学校運営にあたるスケールメリットを活かし、3部体制(指導部／運営部／支援部)による校務運営の一層の効率化を図ることで時間外労働時間の削減につなげる。 **○コンプライアンスの徹底【3校共通】** 「学校信頼向上委員会」を定期的に開催し、不祥事防止の取組を計画的に進めるとともに、本校で作成した「教職員の不祥事防止のためのセルフチェックリスト」を定期的に実施し、教職員全員がコンプライアンスの徹底を日常的に意識できる取組を進める。児童生徒及び保護者に信頼される学校となるよう、児童生徒の特性や心情の理解を深め、指導力の向上を図るための研修を充実させる。 **○働きやすい職場環境づくり【3校共通】** 教職員が働きがいを実感し、達成感や充実感を共有できる職場環境づくりを進める中で職員満足度の向上を図るとともに、教育実習や介護等体験、学生ボランティア等の積極的な受入によって地域資源の活用に着目した教職員の意識の活性化を図り、あわせて人材育成の場とする。

4 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

「※」：定期的に進捗を管理する取組　「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
多様な教育的ニーズへの対応	**【3校共通】** 児童生徒の授業進度や病状等の特性、心情を考慮した教育を推進する **【緑ヶ丘校】** 児童生徒が学習空白を感じることなく円滑に復籍できる指導・支援を行う。 **【草の実校】** 丁寧な実態把握に基づいて個別の指導計画を作成し、児童生徒の発達段階や身体状況に即した系統的な指導を進める。 **【あすなろ校】** 個別の指導計画に基づく統一感のある指導によって、児童生徒の安定した学校生活につなげる。 ＜成果指標＞児童生徒及び保護者対象の「学校生活アンケート」結果に「本校の教育支援に満足している」と回答した割合:90%以上	**【緑ヶ丘校】** 児童生徒　89% 保護者　97% 児童生徒　61/97 人 保護者　65/97 人 **【草の実校】** 児童生徒:　—% 保護者 ：　97% 児童生徒　0/0 人 保護者　26/32人 **【あすなろ校】** 児童生徒:　86% 保護者 ：　93% 児童生徒　44/91人 保護者　59/91人	◎
前籍校への復籍支援	**【緑ヶ丘校】** 前籍校へのスムーズな復籍に向け、復籍支援パンフレットを活用した病弱児に対する理解啓発を促進する。 ＜活動指標＞復籍支援パンフレットの活用による前籍校への周知:全在籍児童生徒の前籍校 **【草の実校】** 支援のポイント等を伝え、現在使用している教材・教具を指導方法とセットで前籍校に提案することでスムーズな復籍につなげる。 ＜活動指標＞復学の際の前籍校への教材教具の提供：全在籍児童生徒の前籍校 **【あすなろ校】** 児童生徒の特性や学習状況、支援のポイントを前籍校へ伝えるとともに、教科指導等で活用している教材を提供し、よりスムーズな復籍につなげる。 ＜成果指標＞前籍校へのアンケートで、提供した教材の活用について「活用できた」と回答した割合:75%以上	【緑ヶ丘校】 100%（106 人） 【草の実校】 100%（9人） 【あすなろ校】 89%（29/34 校）	

センターオブセンター機能の発揮	**【緑ヶ丘校】** ○三重大学病院に入院中の高校生へ対面及びICT機器の活用による授業の実施や心理的支援を促進する。 ＜成果指標＞高校生支援に係る高等学校の満足度(とても満足＋満足):80%以上 ○発達障がい支援員との役割分担のうえ、他の特別支援学校と連携した高等学校への発達障がい支援に係る取組を推進する。 ＜活動指標＞高等学校からの発達障がい支援等に関する相談件数:年10件以上 **【草の実校】** ○医療センター・三重病院の専門家と連携し、小中学校等への支援に取り組む。 ＜活動指標＞小中学校の肢体不自由特別支援学級等からの相談件数:年 10 件以上 ○重複学級における教科指導の実践について事例を発信する。 ＜活動指標＞ホームページに掲載する実践事例件数:年3件 **【あすなろ校】** ○医療センター及び県立特別支援学校と連携し、小中学校に在籍する発達障がいのある児童生徒への支援を充実する。 ＜活動指標＞小中学校等への発達障がいに係る支援を行ったのべ数:50 校以上 ○小中学校等の教員を対象とした発達障がい支援に係る各種研修を実施する。 ＜成果指標＞授業実践報告会への小中学校教員及び県立特別支援学校コーディネーター等の参加者総計:150 人以上	**緑ヶ丘校】** ○ 100%(5校) ○ 16件 **【草の実校】** ○ 10件 ○ 3 件 **【あすなろ校】** ○ 63 校 ○ 203人	

改善課題

○多様な教育的ニーズへの対応

児童生徒の病状や地域の小中学校での授業進度等が異なる中、病院関係者と情報共有や意見交換を密に行うとともに前籍校での学習状況の聞き取り等を行い、一人ひとりの願いや思いに応じた指導・支援に取り組み概ね満足いただけた。一方、保護者の心配なこととして、退院時に元の学校に円滑に戻ることができるか心配、といったことがあげられている。

○前籍校への復籍支援

転出時には、パンフレットを活用した復籍支援や、本校での学習内容や教材教具、支援内容・方法等を前籍校へ伝えるなどして、復籍を進めている。特別支援学校と地域の小中学校等では教室規模や友人関係など環境が大きく異なることから、復籍後のアフターフォローも大切であると考えている。

○センターオブセンター機能の発揮

緑ヶ丘校では、高等学校からの支援要請に応じて、助言を行った。また、手術、リハビリのために入院した児童が地域の小学校に戻るのに合わせて、草の実校の教員を小学校に派遣し、医療と連携し医療上の留意事項もふまえた指導・支援について助言を行った。あすなろ校では、医療センターに通院する児童生徒の在籍校に対して主治医の提案のもとあすなろ校の支援のノウハウ等を紹介する取組を行った。

(2)学校運営等

「※」: 定期的に進捗を管理する取組　「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織的・効率的な校務運営による働き方改革の推進	**【3校共通】** 3校に関連する業務について、テーマ毎の3校会議を効果的に開催することで組織的・効率的な校務運営に取り組む。 ＜活動指標＞各分掌部での3校会議の開催:年5回以上	**【3校共通】** 指導部:11回 運営部:6回 支援部:5回	

コンプライアンスの徹底	**【3校共通】** ○「学校信頼向上委員会」の定期的な開催及び「教職員の不祥事防止のためのセルフチェックリスト」の活用により教職員のコンプライアンス意識の徹底を図るとともに、児童生徒の特性等に応じた指導・支援に関する研修に取り組む。 ＜活動指標＞ 病気や障がいの特性の理解、指導・支援に関する技術に係る研修の実施回数:各校年2回以上 セルフチェックリストに基づく注意喚起:毎学期	**【3校共通】** 信頼向上委員会:2回 校内研修会　　:4回 セルフチェック　:3回	◎
働きやすい職場環境づくり	**【3校共通】** 教職員全体の業務内容を見直し、改善を図ることで業務の平準化を図り、生き生きと仕事ができる環境づくりに取り組む。 ＜活動指標＞ ○設定した日の定時に退校できた教職員の割合:80%以上 ○放課後に開催して 60 分以内に終了した会議の割合:90%以上 ＜成果指標＞ ○時間外在校等時間が年 360 時間を超える教職員数:0人 ○時間外在校等時間が月 45 時間を超える教職員の延べ人数:0人 ○1人当たりの月平均時間外在校等時間:30 時間以下 ○1人当たりの年間休暇取得日数:15 日以上 ○「教職員満足度アンケート」で「日々の仕事にやりがいを感じ生き生きしている」と回答する教職員の割合:70%以上	**【3校共通】** 定時退校:　　86% 会議終了:　　95% 年 360 時間超:　0人 月 45 時間超:　　5人 月平均:　　5.3時間 休暇取得:　　16.9日 **【緑ヶ丘校】** 定時退校:　　85 % 会議終了:　　96 % 年 360 時間超:　0 人 月 45 時間超:　0 人 月平均:　　2.7時間 休暇取得:　　19.2日 **【草の実校】** 定時退校:　91 % 会議終了:　93 % 年 360 時間超:　0人 月 45 時間超:　　0人 月平均:　　5.3 時間 休暇取得:　17.1 日 **【あすなろ校】** 定時退校:　81 % 会議終了:　96 % 年 360 時間超:　0人 月 45 時間超:　5人 月平均:　7.9 時間 休暇取得:　14.4 日 やりがいを感じる 教職員の割合 **【緑ヶ丘校】　90%** **【草の実校】　65%** **【あすなろ校】　75%**	

改善課題
○組織的・効率的な校務運営による働き方改革の推進 　3校共通の業務について、必要に応じて3校会議を開催し、役割分担や会議・研修会の運営等を行うことで効率的に業務を遂行できた。県で統一した、校務支援システムを効果的に活用することで、会議資料の削減等につながった。今後は、会議の議事録作成等に生成 AI なども有効に活用し、事務作業時間等の短縮につなげる必要がある ○コンプライアンスの徹底

グループ討議を実施し教職員が相互に気づき合うことで、コンプライアンスに係る意識の向上につなげた。引き続き、効果的な研修となるよう内容や実施方法を工夫するとともに、日頃から教職員間で相談や指摘し合える職場環境づくりに取り組む必要がある。 〇働きやすい職場環境づくり 引き続き、業務の精選、休暇を取得しやすい雰囲気づくり、適切な業務分担等の工夫が必要である。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	〇センターオブセンターとしての役割 動画で学校の取組を紹介したことは理解が深まり非常に有益であった。学校としての熱意や自信も伝わった。あすなろ校について、発達障がいに関しては地域の学校間で理解の差が大きい。基本的な支援が不足しているケースもあるため、全県的な支援の質の向上を目指してほしい。また、小学校で増加している暴力対応において強みを活かし、枠組みづくりや啓発を進めてほしい。 〇復籍後・退院後のアフターフォロー 「復籍後のアフターフォローは重要」という点に賛同する。復籍後に課題が生じた場合、どのような支援が可能か具体的な対応策を検討してほしい。退院後に不登校となるケースがあり、適応の難しさが課題である。より積極的にフォローアップを行い、支援が必要と見込まれる児童生徒の早期評価を進めてほしい。 〇学校生活アンケートの回収率と課題把握 保護者・児童生徒学校生活アンケートの回収人数が少ない理由を明確にし、改善策を検討する必要がある。満足度の高い層の回答が集まりやすいため、より多様な意見を収集できるよう、回収率向上の工夫を求めたい。 〇生成 AI の活用と個人情報保護 生成 AI の活用が特定教職員に依存していないか懸念がある。生成 AI を活用する際は、個人情報保護の観点から慎重な運用が求められる。 〇時間外勤務縮減と教育の質の担保 デジタル化や業務効率化により時間外勤務が削減されている点は評価できる。一方で、児童生徒と向き合う時間の減少や教育の質の低下を招かないよう、質の維持・向上に引き続き努めてほしい。 〇デジタル活用・情報共有・ICT による負担軽減 デジタル活用による業務効率化は大きく進んでおり、評価できる。電話連絡は時間外勤務につながりやすいため、Teams など ICT ツールを活用した連絡体制を一層推進してほしい。

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・地域の学校で発達障がいに関する理解の差が大きい現状をふまえ、各校の支援状況を把握したうえで、発達支援に関する研修や支援内容等を県内学校へ発信する。 ・復籍後に課題が生じた際に迅速に対応できるよう、支援内容・連絡方法を明確にしたフォローアップ体制について検討する。 ・特別支援学校として、各教科等の指導の充実に努める。 ・学校生活アンケートの配布・回収方法の見直しや工夫(紙とデジタルの併用等)により、より多様な意見が収集できる仕組みを整える。
学校運営についての改善策	・生成 AI の活用事例(教材整理、文書の構成案作成等)を校内で共有し、業務効率化につながる活用範囲を拡大する。 ・教育の質向上に向け、ICT 活用や授業改善に関する校内研修を継続し、効率化と教育の質の向上の両立をはかるとともに、不要な校務や負担の大きい作業等を洗い出し、業務の分担や改善策を再検討する。 ・デジタル化による業務効率化をさらに推進し、教職員が教育活動に集中できる環境づくりを進める。